

もちろん、天皇家や関白家、日本一の名でもある前田家など、様々な家や場所に自分の遺伝子を残している人でもあります。私は「日本の母」という言い方をよくするのですが、そういう意味でも、茶々ではなく、お江さんの未来には、「希望」を感じますね。

その江を語るときに、この長浜・琵琶湖・竹生島の三つは切ってもきれないものです。大河ドラマをご覧になり、日本の母・江が生まれた長浜はどんなところだろうと訪れる方がこれから大勢いらっしゃると思いますね。

## 江ノ姫たちの戦国

藤井市長：田淵さんは、今回の「江ノ姫たちの戦国」が「篤姫」に続いて2作目の大河ドラマを手がけられました。原作の執筆作業はどのように進められたのですか？先ほど、琵琶湖や小谷城址などに足を運ばれたそうですが…

田淵さん：まず、彼女たちが生まれた小谷に行き、三姉妹が見ていたと思われる景色を見て、様々なことを感じるところからスタートしました。「篤姫」の場合も鹿児島という土地に行き、まず篤姫



▲田淵さん：「わたし自身が長浜を愛しています」

▲市長：「長浜は魅力満載です」

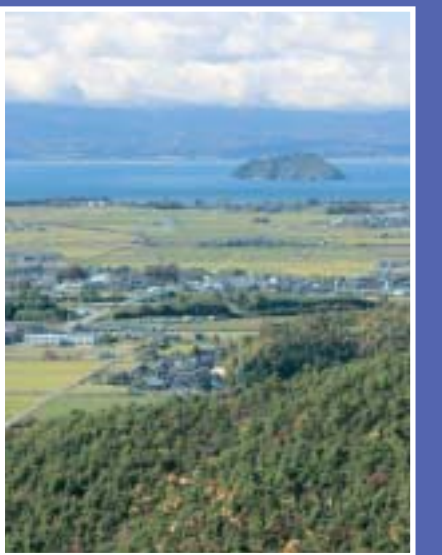
いて思うのが、過去に生きた方たちを私たちがちゃんと学びなおして、そこにもう一度きちんと光を当てるとのこと。これは、今を生きる私たちにとっては必要なことじゃないだろうか、いつもだいたいそれのことを思っているんですが、そういう意味で言うと戦国の時代、特に女性の思いというものが、もしかしたらないがしろというか後回しにされているかもしれないという時代に、その女性たちを描かせていただくということはすごく意味があることなんじゃないかと、強く感じました。

## 一緒になってよかったと思えるまちづくり

藤井市長：さて、新しい年が始まりましたが、田淵さんの今年の抱負は？

田淵さん：視聴者の皆さんに喜んでいただける脚本を書くことですね。藤井市長はどんな一年にしたいですか？

藤井市長：この2011年は長浜市にとって大切な年になると思っています。「江・浅井三姉妹博覧会」を成功に導き、12万5千人の市民が一緒になってよかつ



▲小谷山から眺めるびわ湖と竹生島

が生まれ育った場所を感じるところから始めました。今回も全く同じです。そして、今回もまずは主人公の「江」が生まれた土地を、つまり長浜という土地を、私自身が愛することから始めようと思いました。そうでないと、主人公を描くことはできないんですね。それにしても、あの時代で、このあたりを中心には様々なことが起きているんですね。本当に狭いところでたいへんなことが起きていたんだと、知れば知るほどに、この長浜という土地の持つ力というものも思い知らされます。日本に生まれた以上、そのことを知らなければ自分を語れない。日本人としての自分を語れない。そんな思いが湧き上がってきますね。

藤井市長：私も長浜の地が戦国時代にはたいへんな舞台になっていたと思います。おそらく群雄割拠、天下統一を夢見る武将たちが駆け回っていたことでしょう。

田淵さん：大河ドラマを書かせていただ

たと思ってもらえるまちづくりを進めたいです。

田淵さん：博覧会を機に長浜のまちがますますいきいきとして、魅力あるまちになるといいですね。ご活躍されることをお祈りしています。

藤井市長：「江・浅井三姉妹博覧会」は12月4日まで開催しています。田淵さんも都合がつけば、ぜひお越しください。今日はありがとうございました。



▲江も眺めたであろう伊吹山を望む（北ビワコホテル グラツィエ 3F パルコニーにて）